

令和 7 年 2 月 25 日

上 島 町 教 育 委 員 会
教育長 田坂 敏 様

上島町立弓削中学校
校長 白石 建彦

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

1 開催日時 令和 8 年 2 月 1 6 日（月） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 0 0

2 参 加 者 学校運営協議会委員及び小中学校管理職 1 1 名

3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

1 学校評価アンケートから特に課題と考えられる項目の分析と考察について、学校からの説明

(1) 質問項目 1 番について

教職員、生徒の評価に対して保護者の評価が低くなっている。グランドデザイン等をはじめとする学校経営方針が、教職員、生徒への理解が深まっている反面、保護者にはその取組が十分には伝わっていないと考えられる。学校教育活動を通して指導を継続するとともに、学校の取組を保護者に伝える工夫をしていく必要がある。

(2) 質問事項 5 番について

昨年同様、教職員・生徒・保護者ともに低い結果になっている。課題を与えたり、e ライブラリの活用を促したりしているが、まだまだ生徒や家庭には浸透していないことが原因であると考えられる。授業ノートの見直しなど、基本的な学習内容から取り組むことで家庭学習への意欲を高めていく。また、家庭学習の習慣は、小学校からの積み重ねが大切であり、小・中の連携を図り徹底させていくとともに、家庭の協力を得て連携を図る必要がある。

(3) 質問事項 12 番について

生活アンケート（ジブンミカタプログラム）を通して、生徒の悩みに関する実態把握に努め、早期対応を心掛けた結果、生徒の肯定的な意見が 14%上昇した。定期的な教育相談だけでなく、いつでも相談できる体制や雰囲気づくりをしていく。また、小さな問題でも電話連絡や家庭訪問等を行うことで家庭との連携を密にし、常に情報交換を行うことが重要である。

2 自由記述について

- 進学説明会を全校生徒にしてほしい。3年だけならもっと早くしてほしい。
 - 学年に応じてキャリア教育（進路学習）を行っており、現時点では全校生徒を対象にした進路説明会は行っていない。また、高校や入試要項の関係で、今より早い時期に実施することは難しい。
- もっと真剣にいじめや差別の教育に取り組んでもらいたい。
 - 道徳だけでなく教科・学校生活を通して生徒へ指導を行っている。教職員についても職員研修を重ねており、生徒への指導や生徒の見守り等を更に継続して行っていく。
- 一部の生徒の言葉遣いが人を傷付ける言葉を使っているようで、気になる。
 - 人を傷付ける言葉を使っている場合には、教職員の共通理解の下、理解を深めてその都度指導している。

3 意見交換

- 「家庭との連携」について
 - ・ 様々な習慣を身に付けるためには、学校教育だけでは難しく、家庭の協力が不可欠である。家庭が求めていることについては、保護者アンケートや懇談会、日常の連絡帳・面談等を通して把握することを基本としている。また、学校での取組を知らない保護者もいると考えられるので、協力を得るために情報発信をしていく必要がある。
- 「学習習慣」「読書習慣」「生活習慣」について
 - ・ 基準があいまいになっている。基準を明確にして保護者に伝え、全員の評価軸を同じにすると良いと思う。
 - ・ 各回答者が何をもって判断しているのか。揃えた方がもっと良い結果になると思われる。
 - ・ 教師は自分とクラス、保護者は我が子をメインで評価している。意図する結果が出ているのか疑問に思う。アンケートの項目づくりに工夫が必要（同じ目線になるように）である。
 - ・ 「自分の子どもを見て判断してください」など、注意を入れたら分かりやすくなると思う。